

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 各種入試ごとに学生受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定する。	→ 「入試形態と受入方針策定済みの入試形態」	A
2. 各種入試の追跡調査・分析を行い、またその一環として学科別入試の追跡調査と分析を行う。	→ 「追跡調査の項目を設定し分析する責任組織の有無」、「追跡調査・分析の進捗状況・結果の報告書」	C
3. 追跡調査の結果や教員の負担を考慮して、最適な入学者選抜方法と各募集人員に関する構想を作成する。	→ 「検討組織の有無」、「入試方法・募集定員に関する構想の有無」	D
4. 各種入試の追跡調査の結果をふまえて、一般入試による入学者比率の引き下げ目標を設定する。	→ 「学部・学科の志願者・合格者・入学者の推移（大学基礎データ）」、「一般入試・各種入試の適切な入学者比率に関する目標の有無」	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

## 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目5.0.1	(方針) 「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、(1) 科学的な思考方法の習得、(2) 広範な知識と社会的視野の獲得、(3) 正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4) 人権感覚の陶冶、(5) 国際的・地球的な視野の確保という教育目標と、1. 学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、2. 少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標のもと、多様な選抜方法を採用し、多様な価値観・人生観・職業観を持つ学生を受け入れることを方針としている。指定校・協定校推薦については、学業のみならずスポーツでも優れた実績のある学生の推薦を依頼している。またAO入試については、大学生活、社会生活でリーダーシップを発揮できる人、コミュニケーション能力に優れた人の受け入れをアドミッション・ポリシーとしている。 (現状説明) 指定校・協定校・高等部推薦入試以外については、2010年6月現在、ホームページ上でアドミッション・ポリシーを公表している。AO入試の説明会も開催している。
★	小項目5.0.2	(現状説明) 一般入試以外に、AO入試、高等部推薦、指定校・協定校推薦、社会人・留学生・帰国生徒入試など、多様な選抜方法を採用している。また「推薦入学面接確認事項」、「外国人留学生入学試験取扱」、「帰国生徒入学試験取扱」等に基づき、法学部入試実行小委員会・AO入試実行小委員会が評価と選考案作りを行い、これをもとに法学部教授会が審議し、入学者を最終的に決定している。また出題採点や面接については、法学部教員が幅広く担当している。
★	小項目5.0.3	(現状説明) 適切な定員の設定や入試のあり方については、追跡調査結果などを用いながら入試検討委員会、教授会で適宜検討している。ただし追跡調査は未だ部分的な調査にとどまっている。また定員充足率については、法律学科が2008年度0.96、2009年度1.05、2010年0.93であり、政治学科は2008年度0.95、2009年度1.36、2010年1.08であるが、法学部全体では、2008年度0.96、2009年度1.12、2010年0.96である。
★	小項目5.0.4	(現状説明) 学生の募集、入学者の選抜については、各入試実施後、入試実行小委員会・AO入試実行小委員会委員会の報告をうけて教授会が検証するとともに、最終的な入学者の決定はすべて教授会が行っている。
★	その他	

## 《特定6項目データ》

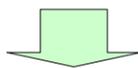
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	69.1%	64.7%	64.0%	70.9%	65.7%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表15参照
表	学部の人・留学生・帰国生徒数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
指標2	志願者総数	人	6,706	8,220	6,297	6,507	5,791	
指標3	志願者倍率	倍	10.3	12.6	9.3	9.6	8.5	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	%	—	—	—	—	—	近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	2006年以降の一般入試入学者比率は概ね60%台半ばを推移しており、受験者の多様性は一定、実現されている。
★ 小項目5.0.3	入試のあり方については、入試検討委員会が2004・2008・2009・2010年度の学科別・入試形態別の成績・就職等に関する部分的な追跡調査などを用いて検討を進めている。また定員充足率も概ね良好である。
小項目5.0.4	
その他	



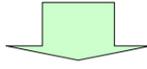
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	追跡調査は部分的なものにとどまり、未だ統一的な方針に基づく学科別・入試形態別の追跡調査はなされておらず、調査方法やその検討・分析主体も未定である。
小項目5.0.4	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	2009年度各種入試追跡調査に関する全学レベルの報告書が本年10月に提出される予定である。法学部ではこの結果をまっけて、まず追跡調査項目の検討・決定や分析を行う主体・組織を定め、総合的な追跡調査の分析作業に着手することが必要である。その上で次年度以降、これをデータとして、最適な入学者選抜方法と各募集人員に関する構想の作成、一般入試の比率引き下げ目標の設定を行うことになる。
小項目5.0.4	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○志願者倍率が8.5と低く、また趨勢として低下傾向にある点が懸念されます。

## 【学内委員】

○目標の2の追跡調査の実施がなされていません。3、4の目標の達成のための前提となるので、できるだけ早く実施することが望まれます。  
 ○取り組みが進捗中であると判断されます。  
 ○編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。  
 ○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「4. 学生の受け入れ ③学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である」「同、④学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である」については、それぞれ助言や勧告の対象値が示されています。絶えず確認し遺漏のないようにお願いします。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★小項目5.0.3 (現状説明) 収容定員に対する在籍学生比率は、法律学科が2008年度1.05、2009年度1.07、2010年度が1.05。政治学科が2008年度1.08、2009年度1.22、2010年度が1.20である。  
 小項目5.0.3 (改善すべき事項) 特に政治学科については、ここ三年で収容定員に対する在籍学生比率がやや高めに推移しているので、今後この傾向が続くのであれば、対策が必要となる。

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の新入生数のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

### <個別的な指標>
